

## 御意見と御意見に対する考え方

	御意見の概要	御意見に対する考え方
1	「建築物の建築又は工作物の建設を行う場合等掘削された場所に土壌を埋める必要がない場合は、この限りでない。」とあるが、掘削された場所を埋めずに、そのまま使用する事例も考えられ、省令案中の「等」について、省令案に併せて明らかにされたい。	御意見の「等」には、掘削された場所を埋めずに利用するような場合も含みます。
2	建築される構造物との関係で、観測井を設置する位置及び観測深度が不明である。	観測井については、省令案に規定された範囲内で、各土壌汚染の現場の状況を踏まえて、当該土壌汚染による地下水汚染の有無を適切に観測しうる場所に設置することが必要です。観測深度については、汚染土壌があった範囲及び地下水の深度を勘案して、適切な深度に設置することが必要です。
3	掘削除去後に、埋め戻さない状態が長期にわたる場合には、掘削部分に雨水が溜まる可能性や、掘削側面の壁の崩壊等が生じる可能性がある。そこで、汚染土壌が高いリスクレベルでない場合は、掘削を先行するのではなく、建築物の建築又は工作物の建設を行う時点まで掘削を猶予し、その工事にあわせて掘削除去を行うことにより、地盤保全面での問題は回避できると考える。	土壌汚染対策法は、土壌汚染の除去方法等について規定しているものであり、掘削除去の現場における安全対策については、他の法令等に基づき施工業者が適切に施工することになると考えています。 また、掘削除去は、措置命令により命ぜられた期限内に実施されることが必要であると考えています。
4	埋め戻しを行わない場合、掘削除去の措置が完了したことの確認方法が不明確である。	土壌の埋め戻しを行う場合と同様に、地下水汚染が生じていない状態が2年間継続することを確認(現に地下水汚染が生じていないときにあっては、地下水汚染が生じていない状態を1回確認)することが必要です。